

# 平成18年度「産業社会と人間・産業理解」の実践と評価

大森俊彦・後藤巻子・竹内義晴・奥村準子・渋木陽介  
・小松孝太郎・本弓康之・工藤泰三・岡 聖美

平成18年度の「産社・産理」は、従来の「産業理解」授業項目を厳選し、日本社会の抱える教育の諸課題を意識しつつキャリア教育の視点をふまえて学習プログラムの見直しをおこなった。このような新たな取り組み（実践）に対する評価について報告する。

**キーワード** 「自分史」の導入 「ふりかえり」と「分かち合い」 3年間を見通した教育プログラム

系列授業見学の実施 新しいかたちの「意見発表会」 生徒による自己評価

## 1. 「産社・産理」開発の経緯と課題

本校は「平成12～14年度文部科学省研究開発学校」の指定を受け、「生徒の主体的な学習態度の育成を図るための総合学科におけるガイダンス的な教科・科目の開発研究および学習内容の総合化のための開発研究」を研究主題として、新教科「産業」およびそれに属する新科目「産業理解」の開発に取り組んだ。同科目は、平成8年の中教審答申で登場した「生きる力」の伸張、平成12年の「高等学校における教養教育」の必要性など時代の要請を受けつつ、従来の教科・科目の枠にとらわれない新しい教科として開発を構想された。教科の目標を、「産業に関する基礎的・基本的な理解や関心を高めさせ、産業と人間の関わりや、社会生活において産業が果たしている役割について理解させるとともに、自らの体験を通して様々な問題に対処する力や、新たに創造する力を育てる」ことにさだめ、総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」を補完するかたちで1年次の教育課程に盛り込まれた。開発から3年間は、研究開発推進委員会を中心となってプログラム開発（指導案の作成・授業・評価まで）をおこなってきた。開発当初の「産業理解」の授業項目は以下のとおりである。

### 【「産業理解」授業項目】

主題	単元
1 産業を学ぶ	①オリエンテーション ②産業のしくみ ③産業と経済
2 産業を探る	①情報化社会と産業 ②環境と産業 ③国際化時代と産業 ④福祉と産業
3 産業を考える	①生活者と産業 ②これからの産業社会

研究開発指定を終えた平成15年度からは、9名で構成される「産社・産理」部会（現在は「産社・産理」委員会）が中心となって授業・運営をおこなっている。開発からの3年間は全教員で取り組んでいた授業を平成15年度以降は部会構成員の9名でおこなうことになり、「産業社会と人間」と「産業理解」の2科目を別々に運営することの負担を考慮して、「産業理解」は「産業社会と人間」とともに、毎週木曜5～7限および長期休業中の1単位分で実施することとなり、2科目をまとめて「産社・産理」と呼称するようになった。

平成15年度からの3年間をふりかえると、専門分野外の知識を教える教員の苦労や、単元ごとの調査とプレゼンテーションに追われた生徒が充分な達成感を得られない「消化不良」問題が指摘されるようになった。また、平成16年には文科省より「キャリア教育の推進に関する総合的な調査研究者会議報告書」が出され、生徒の職業観や勤労観の育成が重視される時流を受け、平成17年度の「産社・産理」の授業方針は、プレゼンテーションなどの「スキル重視」よりも、「具体的・現実的な理解促進」を目指した「授業項目の精選」がおこなわれた。

「産業理解」の時間帯が「産業社会と人間」と合流したことによって、毎週3時間という長い時間帯をひとつの時間帯として利用できる融通性が生まれ、2科目の相乗効果によって生徒のキャリア発達の一層の促進が期待された。しかし一方で、年間計画作成上の難点も生まれた。「産業社会と人間」の授業項目のうち、交流会や菜園づくりなど外部との日程調整や季節的な事情を配慮すべき項目から先に計画を立てるために、「産業理解」の時間帯が「産社の隙間を埋める」形で計画せざるを得なくなってしまったのである。単元ごとの時間が離れてしまう授業

は、生徒に相互の関連性を意識させることが難しいという課題が生まれた。

【参考・引用】本校研究紀要第43集「産業理解6年目の実践報告」

平成15年度以降の「産社・産理」の授業が抱えた課題を整理すると、以下の2点に集約されるだろう。

- 授業項目（単元）過多による生徒の消化不良・達成感の不足
- 科目を同じ時間帯で交互に実施するために、授業項目相互の関連性に対する生徒の意識が低下

上記の課題の克服が平成18年度「産社・産理」委員会に課せられた。同時に、平成18年度からの校務分掌規定の変更により、教科「産業」の各部会(1年次「産社・産理」、2年次：「起業基礎」、3年次「卒業研究」)を「委員会」組織に位置づけ、その構成員を「原則として各年次会（担任団）」とすることになった。したがって、これまでの部会のように、「前年度スタッフが次年度の部会構成員に残る」という原則も保証されなくなり、前年度継承を前提とした運営も難しいことになった。

## 2. 平成18年度「産社・産理」委員会の授業計画

以上の状況をふまえ、今年度の1年次正担任4名は、分掌が決まった前年の9月から週1回のミーティングをおこない、「産社・産理」の年間計画を検討し、中学校・上級学校との接続を意識しつつ以下の単元配置をおこなった。

- (1) 中学校との接続や生徒のキャリア発達を意識した「自分史」の実践
- (2) ひとつの学習活動に対する「ふりかえり（自己評価）」・「分かち合い（情報共有）」の時間の充分な確保
- (3) 学習内容相互の関連性を生徒が実感でき、3年間を見通した教育プログラムの配置

それぞれについて以下に説明を加えたい。

### (1) 「自分史」の実践について

本校生徒の多くは高校入試に向けて受験勉強しされられ）、入学した後は「やっと受かった」「しばらくは

勉強したくない」（バーンアウト）という傾向が一部の生徒にみられる。一方で、新しい学習指導要領で学んだ生徒たちは「総合的な学習の時間」によって、さまざまな体験活動（職場体験・福祉学習など）を経験している。これらの経験を高校でも評価しつつ、中学校での学習を再確認し、高等学校での学習目標を自分自身が計画できるように意識させ、目的意識をもって学校生活を送らせたい、というねらいを持って「自分史」を4月に配置した。

### (2) 「ふりかえり」と「分かち合い」について

これまで開発してきた「産業理解」の学習項目は、調査・プレゼンテーションなどの体験活動を経験させながら生徒の職業観・勤労観育成をねらってきたが、内容が多岐にわたり、短いサイクルで「調査と検討、発表や報告」を実施してきたために、生徒の動機付けや達成感の面で充分な成果を上げることができなかった。要するに、いろいろと欲張って学習項目を取り込んだために、いわゆる「消化不良」を起こしてしまったのである。そこで、平成18年度は従来の「産業理解」の学習項目を厳選し、ひとつの学習項目に充分な時間をかけ、生徒が「なんのために学習するのか」「学習を経験することで自分自身にどんな成長が認められたか」を自ら体感できるプロジェクト型のプログラムへシフトすることに重きを置いた。

### (3) 学習内容相互の関連性と3年間を見通した教育プログラム

生徒への動機付けをもたらすのは、前述したプロジェクト型（課題解決型）の学習プログラムであり、ひとつひとつの学習が相互の関連性を持っていることを意識させられる内容である。そのため、たとえば例年実践している「職場体験」についても、

#### 【職場体験のプログラム】

- ①「働くひとインタビュー」（動機付け）→②「社会人講話」（事前学習）→③「職場体験」（体験型学習）→④「ポスターセッションによる報告」（ふりかえりと分かち合い）

という一連の流れをつくり、4つのステップにわたる学習をひとつずつこなすことで生徒が相互の関連性を意識し、体験が「単なる経験」に終わらず、自己の意識のなかで意味づけと再確認をおこなえる配置を工夫した。

同様に、福祉体験についても、これまででは4クラス一

齊実施が難しかった「菜園作り」の「裏番組」的な位置づけが強かった同プログラムを、「特別支援学校との交流会の事前学習」という位置づけを持たせるため、5月から9月へ移動した。そして、12月の「産社・産理」意見発表会で「職場体験」「福祉体験」でお世話になった社会人講師をお招きし、生徒の意識を「お世話になった先生へ自己の学習成果を確認してもらう」ようにした。

また、開発科目「起業基礎」（2年次生で2単位）が教育課程に位置づけられたことで、教科「産業」を柱に3年間を見通したキャリア教育の展開が可能となった。1年次で消化できなかった部分は、生徒のキャリア発達に合わせて2年次で学習する時間ができたこともあり、「経済と産業」「生活者と産業」などについては2年次の起業活動のなかで盛り込むことを検討中である。

こうした「厳選」の作業と「キャリア教育重視」の動きは、一方では「従来の産業理解の学習項目の削除」につながり、これまで開発に関わってきた教員から批判の声もあった。今年度「産社・産理」委員会はその声を真摯に受け止め、今年度の取り組みをできるだけ客観的に評価したうえで、次年度へ申し送りたいと考えている。

### 3. 指導のねらい

総合学科13期生を担任する4名（後藤・竹内・奥村・渋木）は、「どのような学年運営をおこなうか」「どのような生徒に育てたいか」という基本方針について討論を重ねてきた。「産社・産理」委員会が「年次会（1年次担任団）」を中心とするメンバーで構成されるようになった以上、H.R.担任が主体者意識をもって授業計画を立てたいという思いが強かったためである。そこで以下の目標を立てた。

- (1) チームワークの大切さを学ぶ体験重視の学習プログラムによってリーダーを育て、生徒の主体性を伸ばす学年運営をおこなう（年度最初の行事となるコミュニケーション・キャンプの目標を「Self Challenge Team challenge」とした）
- (2) 高校受験でバーンアウトした生徒や、中学校で学校外の社会へドロップアウトしていた生徒が「学校は楽しい」「学習は楽しい」と感じる場を創出する
- (3) (2) の実現に向け、生徒の自尊感情の保証を目指したクラス運営・学年運営を目指す。具体的な方策として、H.R.担任のカウンセリングスキルの

向上、学年表彰制度など生徒の学習成果を積極的に評価する場を設ける。

(4) 保護者との連携を意図し、毎月1回の年次通信発行や学務情報共有システムの活用など、積極的な情報発信と保護者を巻き込んだ行事運営を展開する。

(5) 総合学科の生徒として、自身のキャリア形成を意識させ、進路実現を促進するために、1年次の「産社・産理」の時間を用いて「自由・自律・自覚」の生活目標を実現させるとともに、「単位制で系列科目選択」が重要な位置を占める総合学科のシステムを理解させる。

担任団がこのような方針にいたった背景には、日本の学校教育をめぐる近年の大きな改革の波に対する危機感がある。藤田（2006）や苅谷（2006）が指摘するように、日本はこの四半世紀にわたる教育改革によって成果主義・市場主義が学校教育現場を大きく変容させ、生徒の教育格差を拡大する方向に進んでいる。

一方で、OECD（経済開発協力機構）が実施した2003年のPISA調査から明らかとなつたフィンランドの教育の優秀性について、佐藤（2005）らは以下の点を指摘している。

#### 【フィンランドの学校】

- 学校は「小さなコミュニティ」（高校の生徒数平均は150名程度、教室の生徒数は16名が標準）
- 一斉授業から、プロジェクト学習と協同学習への学習形態改革
- 学習につまづき遅れている生徒に対する手厚い指導（能力別・競争主義の教育を克服し、「質」と「平等」の統一的追求を実現）
- 教師の質の高さ（教師はすべて修士号取得者）
- 障害児教育におけるインクルージョンの徹底、スクールカウンセラーの配置
- 技術・美術教育レベルの高さと施設の充実

これらの報告から考えると、日本の学校教育が従来有していたコミュニティ性やケア機能、教師の協働性などが近年急速に失われつつあり、私たちは原点に立ち返つて教育に向き合わなければならぬという問題意識を持つにいたつたのである。以上の考えをふまえ、今年度の「産社・産理」の授業は、以下の点をリニューアルするにいたつた。

## 【参考・引用】

- ◆藤田英典（2006）『教育改革のゆくえ－格差社会か共生社会か－』岩波ブックレットNo.688
- ◆苅谷剛彦他(2006)『教育改革を評価する－犬山市教育委員会の挑戦－』岩波ブックレットNo.685
- ◆佐藤学（2005）「フィンランドの教育の優秀性とその背景－PISA調査の結果が示唆するもの－」 教育科学研究会編『なぜフィンランドの子どもたちは「学力」が高いか』 国土社

## 4. 具体的な変更点

### (1) 産社ノートの復活

高校生活3年間を通じたポートフォリオの作成を意図し、成長の記録を1冊のノートにまとめ、3年間保管し、キャリア発達を生徒自身に自覚させることをねらって、4年ぶりに「産社ノート」を復活させた。プリントを配布してファイルに綴じるよりも、ノートとして1冊にまとまっていた方が情報の散逸がないことが第一の利点である。ノートには、新たにファイル評価のポイント、年間行事予定を記載し、ライフプラン用の原稿用紙のページも用意して1年間を見通す視点で作成した。

### (2) 社会との接点を現実的、個人的にとらえるインタビュー活動を強化

社会のさまざまな立場の人びとへインタビューをおこなう活動を強化し、身近な人びとの職業観・勤労観や大学生の学生生活を個別に知ることで、自身の進路について考える機会を設けた。インタビューはできるだけ個人が積極的に質問する（アクションを起こす）ことの意義や、話を聞くことの大切さを事前の説明で意識させた。なお、今年度の入学生には、入学前の課題で全員にミヒヤエル・エンデの「モモ」を読んで内容理解を促すワークシートを提出させ、入学後のコミュニケーション・キャンプで感想文の発表を試みた。この一連のプログラムで、主人公モモがもつ「話を聞く」特技が他者との人間関係形成に大きな影響をもつことを「産社・産理」の事前学習として生徒へ伝えることができた。

### (3) 系列授業見学の実施（時間割を主体的に考える時間の確保、情報提供）

平成15年度におこなわれた本校の第二次系列改革により、系列の選択が生徒の時間割成上大きな位置を占める教育課程となった。そのため、1年次の安易な選択

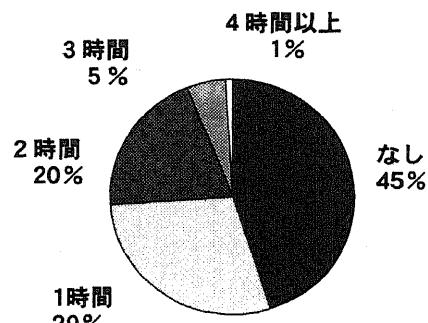
が2・3年次の学習意欲低下に大きな影響を及ぼすことが指摘されている。そこで、産社・産理のなかでおこなう「時間割作成（系列選択）」に関わる活動を見直し、生徒のよりよい選択を可能にする学習プログラムを検討した。過去には「体験授業」というかたちで全ての系列の授業を全員が順番に体験していたが、興味関心のない系列の授業に対する動機付けが低いという課題もあった。以上の経緯をふまえ、体験までできない「見学」であっても、「自身の選択による」という意識をもたせることで、系列選択を主体的に考える契機にさせたいと考え、時間割入力をおこなう約1ヶ月前の10月23・27日の計6時間を利用して、2・3年次生の系列別の授業を見学させた。事後のアンケートからは、実際に見るだけでも、生徒に与える情報量はかなり大きいものであったことが伺える。一方で、見学を受け入れる際の課題もあることが教員側のアンケート回答から明らかとなった。

### 【系列授業見学・事後アンケート結果（抜粋）】

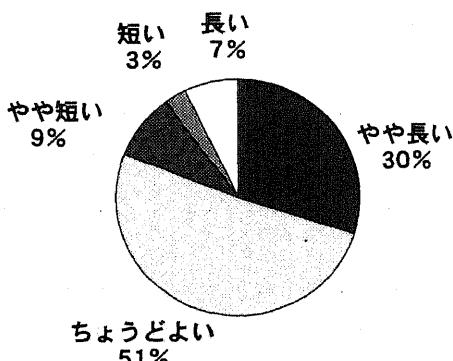
実施：11月1日

対象：1年次生160名 回答：149名（93.1%）

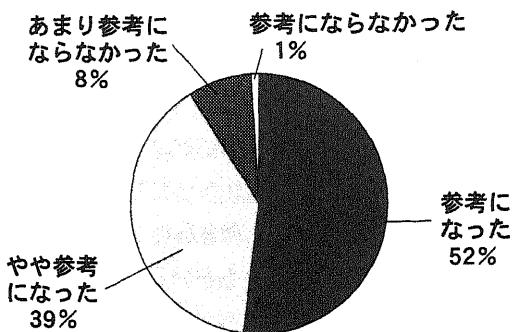
#### Q2 第一希望のかなわなかった授業数（6限中）



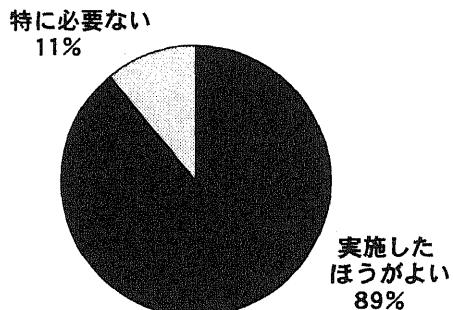
#### Q3 見学時間の長さについて（2日間6時間）



#### Q5 系列選択の参考になったか



#### Q6 来年度以降も実施したほうがよいと思う



#### Q 6 来年度以降も実施したほうがよいと思うか

##### 〔賛成の理由〕

- ・系列選択の参考になったから・実際に授業を見た方が系列のイメージがつきやすから・系列選択に迷っていたので役に立ったから など

##### 〔反対の理由〕

- ・1年がうるさくて先輩に迷惑をかけていたから・あまり参考にならなかつた など

#### Q 7 来年度に向けての意見

- ・見学だけではなく体験もさせてほしい・1年の私語がうるさいのを何とかしなければいけない・第一希望の授業を見れるようにしてほしい(人数制限を緩めてほしい)
- ・質問する時間がないので時間がほしい・事前にその授業の内容を説明してほしい・出入り自由で1時間にたくさん見られるようにしてほしい など

#### 【教員へのアンケート】

##### Q 1 2日間（6時間）の見学授業の長さについて

- ・1年次生の授業がつぶれてしまったので、横並びの必

修授業はクラスによって時間数に差が出てしまった。(特別支援学校との) 交流会の時機も重なり、影響が大きかった。2時間続けて同じ授業を見学している生徒たちは「長くてつまらない」と言っていた。それぞれ1時間ずつあれば充分だと思う など

#### Q 3 実施にあたって考慮すべき点（人数・形態・時期など）

- ・基礎知識がないと理解できない授業内容を見せて、かえって「難しい」「大変そう」という印象を与えてしまったのではないかと心配だ・趣旨には賛成するが、授業人数以上の見学者の受け入れには無理があった。授業内容も1年生が参観できる内容とは限らないので、多少見学対応が必要だと思った・系列授業の時間帯をよく検討し、4時間ではなく、2時間で済むところを探すべきだと思う など

#### (4) 系列別企業見学(自分で選ぶ、系列を意識させる)

前項の「系列授業見学」も同様であるが、今年度の産社・産理の授業では、「生徒自身が選択」する機会ができるだけ保証することに留意した。これまで全員で見学していた夏休みの企業見学(東京証券取引所・日本銀行)についても、「系列選択の準備」という位置づけを持つつ、系列ごとにコースを作成して実施した。

#### 【系列別企業見学の行き先】

- 生物資源・環境科学系列：パソナO2、国立科学博物館または上野動物園
- 工学システム・情報科学系列：パナソニックセンター東京、日本科学未来館
- 生活・人間科学系列：東京ガス科学館「がすてな～に」、トヨタ ユニバーサルデザイン ショウケース「メガウェブ」
- 人文社会・コミュニケーション系列：読売新聞社・江戸東京博物館

#### (5) 職場体験に関するグループワーク

職場体験は、本校の卒業生を中心に受け入れ要請をおこない、毎年7月末に約30の事業所に2~12名程度の1年次生を1日受け入れもらっている。事前に校内で業務内容の説明や日程の確認、社会人としてのマナーや講師自身の職業観・勤労観について話していただき、体験につなげている。今年度は、「クラスを超えた活動」

と、「ポスターセッションによる報告活動」に重点を置いてプログラムを計画した。本校では2年次になるとクラス替えをおこない、ホームルーム外の系列授業も始まるため、クラスを超えた人間関係の構築が学校生活のなかで重要となる。その準備段階として、コミュニケーション・キャンプでのアクティビティをはじめ、産社・産理の授業では意図的に「クラスを超えた班編制」をおこなっている。また、ポスターセッションについては、卒業研究や起業基礎の授業においても、効率のよい成果報告・情報共有手段として校内でも積極的に活用されつつある。1年次8月の段階では「模造紙に写真を貼って文字を書く」かたちのポスター作成が中心となるが、経験を積ませて2年次につなげたいという意図と、職場体験が「単なる体験」に終わらない意味づけをさせたい、という意図から実践した。

キャリア教育において体験的活動を行う場合、「単なる体験」のレベルから「啓発的経験」へどのように移行するかが問題である。この考えについて、三村(2004)は、キャリア学習プランを作成する理論としてワルツとベンジャミンによって提案されたLCDS (Life Career Deveropment System) を紹介している。

- 第1段階 進路の目標と発達段階に喚起させる
- 第2段階 進路発達の課題を経験する
- 第3段階 生徒が自らのニーズ、価値、生活様式、態度などを学び個人化する
- 第4段階 学習したこと、あるいは獲得した価値・態度・技能・行動等を実際の活動場面で使ってみる。

#### 【引用】

三村隆男 (2004) 『キャリア教育入門ーその理論と実践のためにー』 実業之日本社

ポスターセッションの活動は、上記の第3～4段階にあたり、「生活場面での活用」すなわち「進路選択の材料」として活用されれば、職場体験にかかる一連の学習が生徒にとって大きな価値付けをもつことになるだろう。後述するふりかえりアンケートの回答状況を見ても、職場体験は他の項目よりも高い達成度を上げていることが分かる。

#### (6) 自由グループ・コンクール形式の意見発表会

「産社・産理」意見発表会は、本校が総合学科改編以

来継続して実施している1年次生の総括的行事である。2学期制の頃は前期終了時の9月に実施していたが、現在の3学期制になってからは、学年末の3月におこなっていた。今年度は、2月の研究大会で「産社・産理」の成果発表も同時におこなうこととなり、1年次全体の発表のなかで、特に優れたグループの発表と個人の「ライフプラン発表」を研究大会で発表させるために、12月21日に実施した。11月末の期末考査から3週間という短い日程であったが、実行委員会を組織し、各クラスを5グループ（人数・性別不問の自由編成）に分け、発表項目を規定部門・フリー部門から選び、グループで発表内容とプレゼン方法を検討しあいながら準備を進めてきた。12月14日に4会場に分かれて第一次発表会をおこない、20グループのなかから9グループを選出し、12月21日には多目的室に特設ステージを設営して、9グループが発表をおこない、上位3グループが研究大会で発表することとなった。実行委員の約半数は、年度初めに決めた各クラスの「産社・産理係」が務めたが、残りの生徒は自ら手を挙げて活動に加わってくれた。会場に照明・音響も持ち込んでの準備やプログラム作成、他の生徒への広報活動など短期間にたくさんの仕事をこなすことになったが、「1年をしめくくる発表会をみんなで楽しもう」というムードが広がり、密度の濃い発表となつたことは、社会人講師の講評からもうかがえた。

#### (7) 「産業理解」部分の評価（定期考査の実施）

これまで述べたように、今年度の「産社・産理」は授業項目の「厳選」をおこなった結果、従来の「産業理解」の内容をおこなう時間が相当少なくなった。しかし、短い時間でできるだけ効率よく生徒に理解をうながすための一方策として、今年度は定期考査の実施を検討している。これまで「産社・産理」の評価・評定は、生徒の活動と提出物（ワークシートやレポートなど）を中心におこなわれてきたが、「理解」の度合いをはかるにはテストによって確認することも、学年の最後の評価活動として生徒の動機付けにもなるのではないか、という考え方から現在計画中である。

以上、(1)～(7)について変更を加えながら、今年度の「産社・産理」を実施してきた。活動の様子については、末尾に付した年間計画および産社ノート記録等の【資料編】をご覧いただきたい。

## 5. 今年度の取り組みに対する評価

今年度の授業を約3ヶ月を残した時点では、前項(7)の定期考査が評価できない状況であるが、2学期までの活動についてふりかえってみたい。

### (1) 生徒による自己評価

12月20日（第二次意見発表会の前日）に、「産社・産理をふりかえる」という目的でアンケート調査をおこない、生徒の自己評価および系列選択の動向について調査をおこなった。質問項目のいくつかは平成15年度と同じものを採用し、現在の「産社・産理」の授業形態がスタートした3年前との比較ができるように心がけた。また、その他の項目については、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが報告した「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」（平成14年11月）を参考に、①人間形成能力、②情報活用能力、③将来設計能力、④意思決定能力、の4領域からそれぞれ授業内容に即した具体的能力・態度について到達度を自己評価する形で質問を作成した。

このような自己評価調査は、教科「産業」の評価活動として3年間継続しておこなっていくが、生徒のキャリア形成の指標となる本校独自の評価システムの開発につながればと考えている。また、2006年2月に経済産業省の「社会人基礎力に関する研究会」が報告した中間とりまとめによれば、「社会人基礎力」を「組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事をしていく上で必要な基礎的な能力（コミュニケーション、実行力、積極性）」と定義し、能力獲得に必要な三要素として、

#### 【社会人基礎力の能力要素】

- ①一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力（アクション）…主体性・働きかけ力・実行力
- ②疑問を持ち、考え方抜く力（シンキング）…課題発見力・計画力・想像力
- ③多様な人とともに、目標に向けて協力する力（チームワーク）…発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力

#### 【引用】

<http://www.meti.go.jp/press/20060208001/shakaijinkisoryokuset.pdf>

を挙げている。今後はこうした視点も積極的に活用し、

生徒のキャリア形成が具体的にはかれる評価活動を実践していきたい。

#### 【自己評価の分析】

##### ①評価すべき項目

特に高い到達度（「思う・やや思う」と回答した割合が高い）を示した項目は、以下の3点である。

- Q9 自分の将来の夢を達成させたり希望する進路に進むためにも、国語・数学・英語など学校の各教科の授業が大切だと感じる（84.8%）
- Q14 社会人講話・職場体験によって、社会のルールやマナーの大切さを理解・実践した（81.0%）
- Q20 系列ガイダンスや系列授業見学をとおしてたくさんの中から自分の意志と責任で時間割を作成した（91.1%）

Q9は「産社・産理」の学習の影響の有無にかかわらず生徒が学校教育を受けてくるなかでくりかえし教員や親から言われ続けていることではあるだろうが、8割以上の生徒が学校で受ける学習の意味づけを自ら理解できていることが、後述する高い出席率にも影響しているのではないかと分析している。

Q14については、すでに中学校で多くの生徒が同様の体験を経ているが、やはり校外での体験型活動が生徒の意識変容に大きな影響を与えていていると考えられる。

Q20については、今年度は特に系列授業見学の実施などによって9割を越える生徒が納得のいく時間割作成を実現できたと思われる。

##### ②課題となる項目

一方、到達度の低かった項目は以下の通りである。

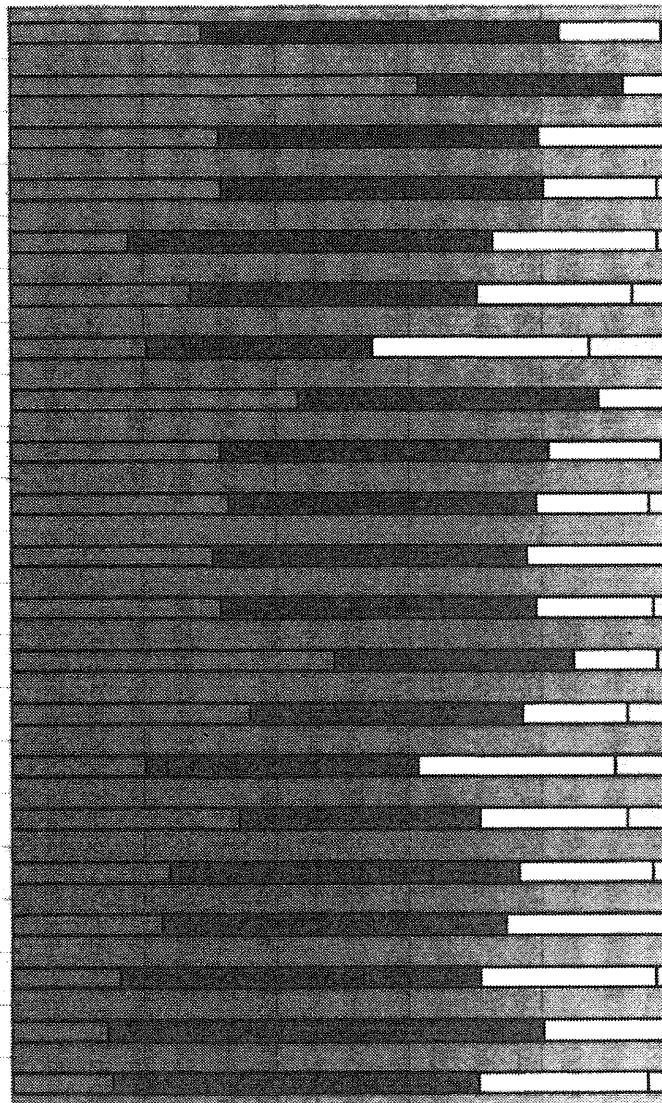
- Q7 「産社・産理」の授業は、新しい発見がいっぱいあって、楽しいと感じる（61.4%）
- Q15 福祉体験や交流会によって、ボランティア活動に積極的に取り組むようになった（53.8%）

Q7については、Q8「産社・産理のような授業は高校では必要と感じる」に77.2%の生徒が肯定しているのに対して、「楽しいと感じる」生徒の割合が低い結果となった。必要は感じていても、楽しさ・充実感の獲得までは至っていない生徒が約15%存在することが明らかとなつた。楽しい授業ばかりを目指すべきではないと思うが、

# H18「産社・産理」ふりかえりアンケート

Q1 Q2 Q3 Q4 Q5 Q6 Q7 Q8 Q9 Q10 Q11 Q12 Q13 Q14 Q15 Q16 Q17 Q18 Q19 Q20 Q21

- 自分の進路希望を実現するために、クリアすべき条件や課題を理解する「系列ガイダンス」や「系列授業見学」をとおして、たくさんの選択肢の中から、自分の意志と責任で時間割を作成した
- 生きがいややりがいのある対象を見つけ、自分を生かせる生き方について考える将来の夢や希望の実現のために、今取り組むべき学習や活動が何であるかを理解する
- 学校や社会のなかで、自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす「菜園作り」を体験して、植物の生長と自分自身の成長をてらしあわせて考えたり、植物を育てる大切さを感じた
- 「福祉体験」や「交流会」によって、ボランティア活動に積極的に取り組むようになった
- 「社会人講話」「職場体験」によって、社会のルールやマナーの大切さを理解・実践した
- 「働くひと」ルポルタージュを作成して、さまざまな仕事や働き方があることを理解した
- 進路説明会やオープンキャンパス参加を通して、高校卒業後の進路や将来の仕事について情報を集め、検討した
- チームでおこなう作業で、メンバーの能力を引き出し、チームワークを高める「自分史」や「自己理解テスト」などを経験して、自分の能力・適性を理解し、それを伸ばそうと思う
- 自分の将来の夢を達成させたり希望する進路に進むためにも、国語・数学・英語など学校の各教科の授業が大切だと感じる
- 「産社・産理」のような授業は、高校では必要だと感じる
- 「産社・産理」の授業は、新しい発見がいっぱいあって、楽しいと感じる
- 筑波大学見学を通して大学というものが身近なものになった
- さまざまな活動のなかで、自分の考えたアイデア・企画を実行する
- 自分の意志や判断によって主体的に作業に取り組む
- 自分の意見を他者に分かりやすくプレゼンテーションする
- 自分の身の回りや社会に対して、問題意識を持って活動する
- 自分を見つめなおし、新たな自分を発見した



□思う  
■やや思う  
□あまり思わない  
□思わない

0% 20% 40% 60% 80% 100%

生徒の満足度を高めることも、授業の充実には必要な観点であるだろう。

Q15の「ボランティア活動への取り組み」については、担任団が特に問題意識をもっている項目でもある。2年次以降福祉を学ぶ生徒もいるのだから、もう少し高い数値を期待したのだが、生徒の自発的な活動への取り組みにどうやって「火を付ける」かが今後の課題となりそうである。

### ③平成15年度との比較

質問項目がほぼ同様のものについて、現在の授業形態が始まった平成15年度と到達度を比較してみた。

#### 【「産社・産理」ふりかえりアンケート 到達度の比較（抜粋）】

質問項目	H15	H18
Q2 自分の身の回りや社会に対して、問題意識を持って活動する	37.8%	80.4%
Q3 自分の意見を他者に分かりやすくプレゼンテーションする	31.5%	70.9%
Q15 福祉体験や交流会によって、ボランティア活動に積極的に取り組むようになった	51.1%	53.8%

【参考】筑波大学附属坂戸高等学校（2004）「第7回総合学科研究大会資料集」

全体的に平成15年度と比較して高い数値となったことは評価すべき点である。初年度の試行錯誤から4年が経過し、現在の授業形態（木曜5～7限プラス長期休業中の活動）が年間を見通して計画できるようになったことと、授業内容の厳選が、ひとつひとつの授業の完成度を高める結果となったと分析している。

### （2）出席率の維持

今年度の1年次生の特長として、高い出席率が挙げられる。下表は過去4年間の1年次生が1・2学期に欠席した延べ数を示したものであるが、平成18年度は100日を切る数値となった。これは、2学期に入ってからも長期欠席の生徒が1人も出なかった結果であるが、担任団の当初の目標であった〈「学校は楽しい」「学習は楽し

い」と感じられる場の創出〉が一定の成果を上げたものと思われる。

	1・2学期 授業日数	欠席日数 (1年次生 の延べ数)	出席率100- (欠席日数 ／授業日数 *在籍者 160名)
平成15年度 1年次生	134	197	99.1%
平成16年度 1年次生	134	155	99.3%
平成17年度 1年次生	134	127	99.4%
平成18年度 1年次生	133	69	99.7%

### 6. 今後の課題

以上、平成18年度の「産社・産理」の取り組みについて、これまでの課題と委員会構成者の問題意識、指導のねらい、具体的な変更点、取り組みに対する評価などについて述べてきた。これらをふまえ、来年度以降の課題について以下に述べたい。

#### （1）キャリア教育の評価の在り方と生徒の進路実現

生徒のキャリア形成をどのように測定するかについては、今後さらに議論を重ね評価活動を充実していく必要があるだろう。これまでの高等学校における進路指導はいわゆる「出口指導」に偏っていたが、キャリア教育の視点に立った生徒の職業観・勤労観の発達が具体的なかたちではかかる評価のあり方が望ましい。一方で、今年度の「産社・産理」の授業では従来の「産業理解」の学習活動を大きく削除してしまった。この判断がどのように影響するかは今後の生徒のキャリア形成を慎重に見守りつつ評価すべき必要があるだろう。また、大学全入時代に突入し、安易な大学進学が必ずしも望ましい進路指導のあり方ではないことを教員も意識すべきであろう。そのうえで、生徒の望ましい進路実現に向けた支援策が今後も求められる。

#### （2）起業基礎・卒業研究への接続

高校3年間の教育課程を貫く本校の教科「産業」の視点で「産社・産理」をみると、2年次の「起業基礎」、3年次の「卒業研究」との接続を意識したプログラムの

開発が今後の課題となるだろう。生徒には折にふれて活動の意図が3年次の卒業研究に集約されることを説いてきたが、その効果は再来年の生徒の研究成果を見て評価したい。

### (3) 「総合的な学習の時間」とのかかわり

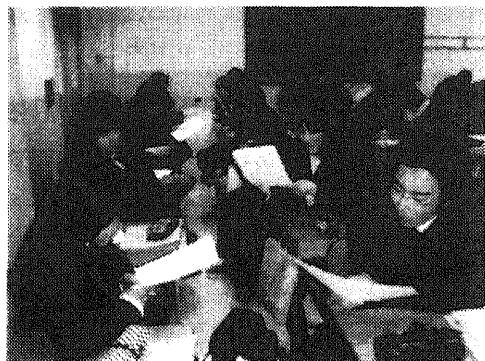
当初の計画では、1年次の総学は読書指導を中心におこなう予定であったが、2学期以降、交流会の準備などをLHRを含め総学の時間まではみ出しておこなうことになり、時間割上の区別があいまいになってしまった。本校の総学の位置づけについては、教科「産業」とのかかわりをふまえ、今後さらに検討を重ねる必要があるだろう。

#### 【資料編】

- (1) 活動のようす（写真）
- (2) 年間計画
- (3) 「産社・産理」ノートの記録
  - ①学習の記録（6月15日「働くひとルポルタージュ発表」と「菜園手入れ」）
  - ②ワークシート
    - a 自己理解カルテ
    - b 「働くひと」インタビュー調査シート
    - c 産社産理ふりかえりシート（菜園生長記録）
    - d オープンキャンパスに参加して
    - e 筑波大学見学インタビューシート
    - f 系列授業見学
    - g 科目選択理由書
  - ③学習レポート「社会人講話をふりかえって」

## 【資料編】（1）活動のようす

①「自分史」インタビュー活動



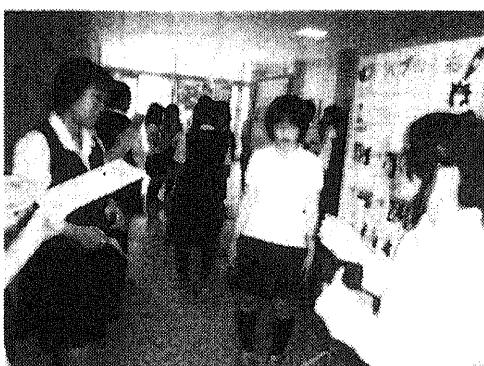
②「働くひと」ルポルタージュ発表会



③「職場体験」事前学習(事業所調べ)



④「職場体験」ふりかえり(ポスターセッション)



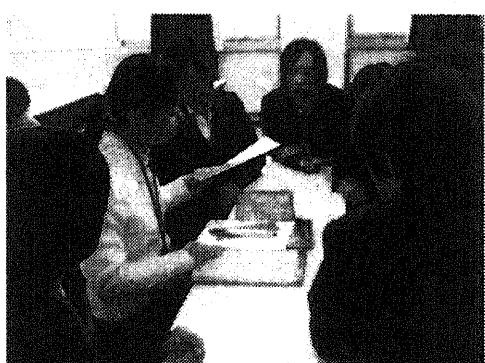
⑤系列ガイダンス(生活人間科学系列)



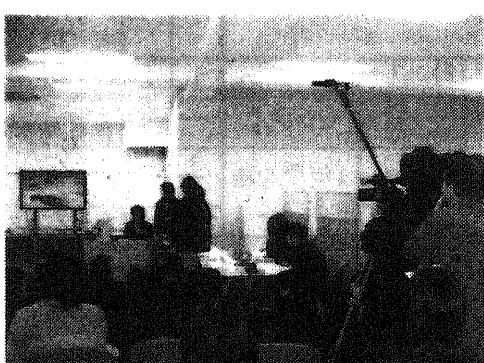
⑥系列別企業見学(トヨタ「メガウェブ」)



⑦附属盲学校との交流会(点筆の説明)



⑧第一次意見発表会(福祉実習室)



【資料編】(2) 平成18年度 産社・産理 年間計画

学期	No.	月	日	主題	区分 産社 産理	単元	各時間の活動		
							5时限	6时限	7时限
一学期	0	4	8	新しい出会いを楽しむ  自己を見つめる  系列(学校の学び)を知る  働くひとを知る  社会を知る(外の世界へ出る)	12	総合学科オリエンテーション	コミュニケーション・キャンプ		
	1	4	27		3	自分史をつくろう①・菜園づくり①	「産社・産理」科目説明(評価・年間計画等)	教員の「自分史を語る」	生徒同士のインタビューとワークシート作成
	2	5	11		3	自分史をつくろう②・菜園づくり②	菜園作り・定植:前後半2クラスずつ展開(裏面で自分史執筆、グループ発表)		
	3	5	18		2 1	自己理解テスト・系列ガイダンスオリエンテーション	自己理解テスト	「働くひと」インタビュー・導入	系列ガイダンス・オリエンテーション
	4	5	25		3	系列ガイダンス①	系列ガイダンス		
	5	6	1		3	系列ガイダンス②	系列ガイダンス		
	6	6	8		3	科目選択予備調査	選択入力説明	科目入力	
	7	6	15		1 2	「働くひと」ルポ発表会	「働くひと」インタビュー・ルポの発表会	菜園手入れ	
	8	6	22		3	職場体験指導①	導入・要領説明、事業所について調べる		
	9	6	29		1 2	職場体験指導②	マナー指導・職場体験レポート指導	菜園レポート	
	10	7	13		3	社会人講話、出前講義	社会人講話、工学システム学類出前講義		
	11	7	14(金)		2	社会人講話ふり返り	ノート記入、事前指導等		
	12	7	15(土)		2	収穫祭	収穫祭		
	13	7	18(火)		1 2	夏休み前の指導	オープンキャンパス指導、菜園レポート作成		
	14	7	21(金)		2	進路説明会	進路指導部主催による説明会		
	15	7	下旬		6	職場体験	各事業所ごとにグループで体験活動		
	16	8	24		3	職場体験・オープンキャンパスふり返り	振り返りレポート作成・報告会	企業見学指導	
	17	8	29・30		4	企業見学	4グループに別れ、系列に沿った各企業へ見学		
二学期	時間数計				34	提出物・ノート点検提出 〆切:①5月末 ②6月末	評価対象作品:①「コミキャン日誌」「自分史」②「働くひとルポルタージュ」		
	1	9	7	他者を知つて自己を理解する①  大学(学問分野・大学生活・親大學)を知る  2・3年次の学び(系列選択)について考える  他者を知つて自己を理解する	3	福祉体験①	福祉講話(元気な亀さん)	福祉入門的な授業(交流会の導入)	
	2	9	14		3	福祉体験②	アイマスク体験(2クラス)	車椅子体験(2クラス)	ふりかえり
	3	9	28		3	筑波大見学①	導入	教授による出前講義授業	ふりかえり
	4	10	5		3	筑波大見学②	筑波大見学準備(グループ分け・見学計画等)		
	5	10	(木)		6	筑波大学見学③	筑波大見学(1日)		
	6	10	12		3	筑波大学見学④	ふりかえり(壁新聞作成・情報共有)		
	7	10	19		3	時間割を考える①	職業と学問のつながりを考える		
	8	10	(月)		4	系列見学授業①	希望する系列の授業2つを選択・見学する		
	9	10	26		3	時間割を考える②	科目選択理由書作成		
	10	10	27(金)		2	系列見学授業②	希望する系列の授業2つを選択・見学する		
	11	11	2		3	交流会①	導入	アイデアを練る	
	12	11	9		6	交流会②	交流会本番		
	13	11	16		3	交流会③	ふりかえり・学年発表会準備		
	時間数計				30	提出物・ノート点検提出 〆切:①8月24日 ②10月末 ③11月末	評価対象作品:①「菜園レポート」「職場体験レポート」「オープンキャンパスレポート」②「福祉体験レポート」「筑波大見学壁新聞」③「科目選択理由書」		
三学期	1	12	7	学んだことを伝える  1年間を総括する  産業を理解する	1 2	学年発表会リハーサル	科目選択入力	学年発表会リハーサル	
	2	12	14		3	意見発表会(第一次)	4会場で実施		
	3	12	21		3	意見発表会(第二次)	多目的室で実施		
	4	1	11		3	ライフプラン作成	冬休みの課題をもとに執筆。担任がアドバイス		
	5	1	25		3	ライフプランクラス発表	ふり返りとしてテストを実施、評価とする		
	6	2	1		3	ライフプラン学年発表	研究大会リハーサルを兼ねる		
	7	2	8		3	環境と産業①	入試期間中の課題をもとに導入		
	8	2	15		4	研究大会	意見発表会(第二次)の優秀者が代表発表する		
	9	2	22		3	環境と産業②	基本的には多目的室で講義形式の授業をおこない、学年末考査を実施する		
	10	3	1		3	環境と産業③			
	時間数計				10	提出物・ノート点検提出 〆切:3月上旬	評価対象:学年発表会パフォーマンス・産理テスト・年間振り返りレポート		
年間	時間数計			74	66	合計140時間(4単位×35)			

【資料編】(3)「産社・産理」ノートの記録 ①学習の記録(6月15日)

学習の記録 平成18年6月15日(木) ( 5~6 (7) ) 時限	
単元 「 働く人トレーニング発表 」	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く人にインタビューすることで、働くことの意義や職業内容を理解しよう。</li> <li>人生の失敗の話を聞くことで、自分の将来の生き方を考えて社会貢献のあり方を考えよう。自分をする(話を聞く)、トレーニング(資料レポート)の作成を経験し、情報収集する力がつこう。</li> </ul>
学習内容	<p>5限…4,5人のグループをつくり、1人ずつ発表し代表者を決める。</p> <p>6限…代表者の発表。</p> <p>(7…文化祭ホームページ企画について)昨日のSHRで英国での追肥。</p>
メモ	<p>横田さん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>監修者さん</li> <li>監修者の希望</li> <li>監修者の希望</li> <li>監修者の希望</li> <li>監修者の希望</li> <li>監修者の希望</li> </ul> <p>根生さん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おはよう</li> <li>おはよう</li> <li>おはよう</li> <li>おはよう</li> <li>おはよう</li> <li>おはよう</li> </ul> <p>萩野くん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師</li> <li>この分野で何を身に付けるべきではない</li> <li>どんなことも前向きに考えるべきだ。</li> <li>若い子たちに負けない体が必要。</li> <li>前向きに改善していく力</li> </ul>

(P. )

1年 組番 氏名																
<p>&lt;園芸&gt; 追肥の方法。</p> <p>土を手で耕す。 紙コップキッカ ぐらうに肥料 を入れる。 →のラインに肥 料をまく。</p> <p>肥料が見えて なるようまでせ す。</p> <p>完成</p>																
<p>感想</p> <p>他の人の「働く人トレーニング」のやうが面白かった。職業は選んでも、共通する何か付けてほのはあるなと思って。</p>																
<p>自己評価</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>(できなかった)</th> <th>普通</th> <th>(できた)</th> </tr> <tr> <td>積極的に授業に取り組めたか</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td><input checked="" type="radio"/> 5</td> </tr> <tr> <td>授業の内容がよく理解できたか</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td><input checked="" type="radio"/> 5</td> </tr> </table> <p>自己評価をつけた理由</p> <p>しっかりしてます。</p>		(できなかった)	普通	(できた)	積極的に授業に取り組めたか	1	2	3	4	<input checked="" type="radio"/> 5	授業の内容がよく理解できたか	1	2	3	4	<input checked="" type="radio"/> 5
	(できなかった)	普通	(できた)													
積極的に授業に取り組めたか	1	2	3	4	<input checked="" type="radio"/> 5											
授業の内容がよく理解できたか	1	2	3	4	<input checked="" type="radio"/> 5											
検印																

【資料編】(3)「産社・産理」ノートの記録

②ワークシート

【自己理解カルテ】

平成18年5月11日班別発表会

(5月11日分の学習ノートへ貼付)

ここまででのワークをふまえて、あなたのこれまでの成長の過程や性格・個性をまとめ、高校生活での目標を明確にしましょう。周囲にあなたという人間を理解してもらるために、また、自分の目標を達成するために、少し勇気をだしてグループのなかで発表しましょう。

- Q1. あなたの性格はどのように変化してきましたか？あなたの性格を説明してください。  
幼児期は人と争うのが好きで大人しかったが、小学校に入っただけで活発になってしまった。しかし、高学年から中学生にかけてはあまり目立つ事なく今まで積極性にかける性格になってきた。
- Q2. あなたの興味・関心のある分野をたどっていくと、どのような特徴がありますか？  
幼児期からずっと貫いて何か物を作ることが好きで、いろいろなアドバイスを形にすることに興味があった。
- Q3. 現在、興味・関心のあることは何ですか？  
まだ漠然としているが何か人の役に立つ物作りに挑戦したいと思っている。
- Q4. これまでを振り返ってみて、あなたの優れた能力や長所は何だと思いますか？  
優れた能力はないが物を作ることに関しては試行錯誤しながら投げたすこなく取り組むことができる。
- Q5. これまでの成長の歴史を振り返ってみて、あなたの個性を簡単に説明してください。  
根本的に人と争うこと好きでマイペースで物事を進めていく。積極的ではないが決して消極的でもない。
- Q6. これから10年後、20年後、あなたはどんな人間になっていきたいと思いますか？  
(目標とする人物)  
10年後は尊敬できる人の下で必死で辛ひ、20年後には自分のアドバイスを形にできる人間になっていきたいと思う。
- Q7. 目標や理想とする人間を目指すにあたり、高校生活ではどんなことに努力したいと考えますか？(達成すべき目標)  
まず勉強面で頑張り専門教科の知識を増やし将来に役立てる。  
またと共に計画し一生懸命やりたい道筋を用意する。

【学習の自己評価】(発表が終わってから記入してください)

- 自分の歩みを振り返り、人々とのかかわりを思い出すことができた
  - 身近な人と話し合い、気づかなかった自分自身を見ることができた
  - 学習活動や成長の記録を整理し、高校生活の目標を発表できた
- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

b.「働くひと」インタビュー 調査シート

(7/13「学習の記録」右側へ貼付)

1年 組 番 氏名

名前	さん	性別 <input checked="" type="radio"/> 男・女	年齢 30歳	勤務先 エーケータイカスト
勤務場所	通勤時間	分	従業員数	人 一緒に働いている人 人
Q.なぜこの職業に就いたのですか？ 社長が高校時代の大先輩OB?たぶん紹介で。			Q.1日の仕事の流れについて教えて下さい。 出社(8:00) 9:00 ? 登(各PCで客の対応)	
Q.仕事の内容について教えて下さい 技術部で金型をつくり色々とさせりんをつくろ。せりむらはんぱない。			Q.この職業に就いて「生きがい」を感じることや、逆に「辛い」と感じることはどんなことですか？	
・注文を受けたとき ・不良品のかりせんするの大変			Q.仕事がうまくいかないとき、どのように克服していますか？ 内が出来たら全てたれると。スポーツとかでストレス発散。	
Q.働いて初めて知った、この職業の「知られざる一面」を教えて下さい。 やるこどが多め。			Q.働く初めて知った、この職業の「知られざる一面」を教えて下さい。 やるこどが多め。	
Q.この職業に求められる適性(性格・能力・体力・資格など)を教えて下さい。 気合・根性。会社のためにと考える。				
Q.今後、どのような職業人を目指したいですか？ お客様から信頼されよう。				
Q.社会人となる前に身に付けておくべきことは何か、アドバイスを下さい。 何よりもあきらめないこと。				
Q.特に質問したいこと(準備シートで考えた質問項目) お客の考えに気をつかっている。月収18万				
【学習の自己評価】(発表が終わってから○を記入してください)				
5点満点で評価				
・働くひとにインタビューすることで、働くことの意義や職業内容を理解できた				
・人生の先輩の話を聞くことで、自分の将来の生き方を考えさせ、社会と職業の関わりを考えるきっかけになった(自分の役割やポジションを理解できた)				
・取材する(話を聞く)を経験し、情報収集する力をのばすことができた				

C. 2006年 1学期 産社産理 ふりかえりシート

月日	トウモロコシの成長	エダマメの成長	あなたの印象に残っているできごと、学習	あなたの気づき、反省
4月上旬			○コミキャン	○入学。 ○コミキャンつかれました。 体重が2kg増えました...。 ○ケキ部に入るニクを決意。
中旬	●	●	○種まき ○部活オリエンテーション ○身体検査 ○体力調査	○情報Cの初授業たのしかった。 ○ケキ部の大変さに気づく。 ○美術って楽しい!と思った。 ○ケキ部のダンスに苦心ある。 ○『平成マシンガン』を読む。 とても面白かった。
下旬			○春期高校演劇 ○コピースの下見 ○さいえん調査 ○教育実習生来る	○公演に向けて役をもつた。 ○初めて図書と一緒にやる。 ○コピースの下見に行く(部活) ○けりたたり背中ヨリ面白!!。 ○スケレUPおもしろがった(部活) ○新人公演の台本をもらつた! とてもたのしみになつた、公演。
5月上旬			○体育祭に向けて大なわを!	○腹筋に慣れた!(部活) ○新人公演に向けて練習充実! ○OBの方が来た! 111人...。 ○イスはすぐ立つためにあるとどうか内先生の名言にカドい。 ★中間テストに苦戦
中旬			○教生おあそ	○コピースに向けて通し練。大変。 ○先輩、すごく格好いいんですね。 ○すいり肌荒れに。人生初めて以来、何故!? そしてのどもはれてしまう。本番近づくのに!となる。 ○本番がんばりました。
下旬			○体育祭。早船さんの誕生日。 ○へんさちの結果が並さまる。 ○中間テスト。5月の下旬からスタート ○テストたくさん返される。	○新人公演に向けての練習が再開される。 ○『ひきこもる』が終了して最終巻を完結。悲しき事...。
6月上旬			○働く人リポート発表、代表者には3人 ○ヒース公演 ○留学生のエリック君が来る。	○コピースに向けて通し練。大変。 ○先輩、すごく格好いいんですね。 ○すいり肌荒れに。人生初めて以来、何故!? そしてのどもはれてしまう。本番近づくのに!となる。 ○本番がんばりました。
中旬			○期末テスト ○南極記念日。	○新人公演に向けての練習が再開される。
下旬			○新人公演に向けてケキ部の練習もハートになる。	○『ひきこもる』が終了して最終巻を完結。悲しき事...。
7月上旬				

映画の  
エキストラをする  
すいり本格的。

2学期に向けて 3つの宣言

必ずやること	演劇部での練習を120%出し切って頑張ります。
できそうなこと	部活と勉強の両立。
やってみたいこと	無遅刻無欠席無早退。保健室の世話をだらしない。

1年( )組( )番 氏名( )

d. オープンキャンパスに参加して

1. インタビュー

●インタビューした人の名前

Q: この学校・学部・学科を専攻した理由は何かですか。  
A: 音楽とコンピュータを学べる。

Q: その学部・学科ではどのようなことを学ぶのですか。  
A: コンピュータで色々学べます。

●どうやって音楽が出来ますか。

●楽譜の読み方

●パソコンで音楽をつくすソフトの使い方

Q: この学校の満足度は

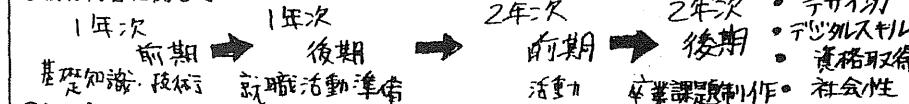
- |                |   |
|----------------|---|
| ①教育内容や研究分野に関して | 不満足 1 2 3 4 <input checked="" type="radio"/> 5 満足 |
| ②キャンパスライフに関して  | 不満足 1 2 3 4 <input checked="" type="radio"/> 5 満足 |
| ③その他のことに関して    | 不満足 1 2 3 4 <input checked="" type="radio"/> 5 満足 |

Q: この学部・学科を専攻する高校生へアドバイスをお願いします。

音楽が出来ること。音楽が言葉以上にしてくれる。  
パソコンが出来ること。色々ジャンルの曲を聞く。

2. 見学してわかったこと・感想

●教育内容に関して



●キャンパスライフ（学内の環境・雰囲気、学校周辺の生活環境と便利度、クラブ・サークルの充実度など）に関して

見学会のまん中にあらわしだけで、すぐ裏には川があり、自然がある。  
「コンビニ」が王通りにたくさんある。専門学校なのに体育食堂や屋上にはテニスコートがある。

●その他のことに関して

- ①短期間で力をつける
- ②女子寮で得たことに出来る。
- ③就職率が95%
- ④1人1台 入学した時にパソコンを借りることが出来る。

●模擬授業・公開授業

①先生名

大木

②テーマ

③授業の内容

●感想

ただ音楽といつても、パソコンなどを使って音楽を学ぶなんてあまり聞かないことがなかたので、新しいなあと思いました。

パソコンを1人1台借りられるんだすごいと思いました。就職率がすごいと思いました。

●総合判定 向いていない 1 2 3  4 5 向いている

●「筑波大学見学」インタビューシート

(10/11「学習の記録」右側へ貼付)

1年\_\_組\_\_番 氏名\_\_ ( ) 班

前 さん 性別 <input checked="" type="radio"/> 男・女 年齢 21歳 所属先 <input checked="" type="radio"/> 環境科学研究室	
<b>学・研究に関する事項</b>	
毎日自主学習するか 勉強していることすべてが自主学習	
Q. 1日の生活の流れについて教えて下さい。	
0:00 ↓ 睡眠 6:00 4:00 登校 ↓ 宿題・解析 12:00 午休 1:00 ↓ 宿題・解析・ミーティング 18:00 19:00 夕食 ↓ 宿題・解析 24:00	
<b>学生生活に関する事項</b>	
2. オススメの学食は? 体芸食堂	
3. 生活上の不便は? 雨が降ると道がぬ水でつかってしまうので移動が大変	
4.	
<b>その他</b>	
Q. 築波大に入ったきっかけは? 色々な種類の授業があるから。 科目を専攻するのを後輩はしてきましたから	
Q. 大学卒業後の進路について 就職会社の研究員	
【学習の自己評価】(壁新聞作成が終わってから○を記入してください)	5点満点で評価
・大学生にインタビューすることで、大学で勉強・研究する内容や学生生活を知ることができた	1・2・3・4 <input checked="" type="radio"/> 5
・人生の先輩の話を聞くことで、進路を考え、自分が将来どのように社会と関わっていくかを考えるきっかけになった(自分の役割やポジションを理解できた)	1・2・3・4・5
・取材する(話を聞く)活動を経験し、情報収集する力をのばすことができた	1・2・3 <input checked="" type="radio"/> 4・5

## f. 授業見学ワークシート

1年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_ 希望系列: I

10/23(月) 1限め 見学授業名「 地理B 」	
授業が行われていた教室( 3C )	
科目的分類: <2③> 年次 <I・II・III・IV> 系列指定・選択科目 or 自由選択科目	
見学した授業は、どのような項目や内容でしたか	
<p>&lt;生産&gt;      ノードの比較生産量説(比較優位) 国際分業      X財 Y財 同じものを作るのに、      &lt;オーストラリア&gt; 地球(大陸と島)でできる。      A国 6h 4h A:Bの国では時間      B国 10h 5h が違う。      大陸と島の違いは比較で分けられる。      生産に要するお金 ⇒ コスト      島大陸=オーストラリア(最小の大陸)      (生産費・労働賃料)      最高峰: コジアスコ山(2228m)      先輩受講者の熱心さや授業の雰囲気はどうでしたが      先生の話をよくメモすると、そういういい人がいた。      先生に指されて、分からぬところは「分からない」と言って      いる。気まずい雰囲気がなかた。</p>	
授業を見学して、あなたの系列選択や科目選択にどう影響を与えたか	
<p>その土地を知ることで生態が分かりそう。      今回の授業は生態を知るうれしいことだなあ、たけど、      地理は好きだし、興味がある壁みたい。</p>	
先輩にミニインタビューを試みてみましょう	
質問したこと 科目選択について	
先輩の回答	
<p>すいせんで大学行こうと思ったなら、表現演習で小論文      を書くかもつづく。      先輩、先生に話をよく聞く。</p>	

## 授業見学ワークシート

1年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_ 希望系列: IV

10/23(月) 4限め 見学授業名「 現代文Ⅱ 」	
授業が行われていた教室( 3A )	
科目の分類: <2③> 年次 <I・II・III・IV> 系列指定・選択科目 or 自由選択科目	
見学した授業は、どのような項目や内容でしたか	
<p>日本語スピーチ-日本語について関心をもった事柄・現象について発表する。      ・世相漢字について      ・男性が使う言葉と女性が使う言葉の違い      ・ナタカイ語について      ・業界用語について      ・2チャネルの用語など</p>	
先輩受講者の熱心さや授業の雰囲気はどうでしたか	
<p>とても盛り上がっていて、発表しそうな雰囲気だった。</p>	
授業を見学して、あなたの系列選択や科目選択にどう影響を与えたか	
<p>とてもおもしろい授業内容だと感じました。普段から疑問に思うようなテーマから、最近はやってるテーマまで色々なテーマの発表が聞けてとてもおもしろかったです。私が希望している系の系列指定なので、3年次になら積極的に取り組みたいと考えます。</p>	
先輩にミニインタビューを試みてみましょう	
質問したこと	
<p>この授業を選択したかった点と悪かった点を教えて下さい。      先輩の回答</p>	
<p>色々な言葉の言い回しが勉強できる      聞く力のあるスピーチには近づかない。</p>	

## ②。科目選択理由書

(1年 組番 氏名 )

授業の目標(ねらい)

- ① 筑波の教育課程(カリキュラム)を理解し、系列・科目を選択する
- ② 自分の希望する進路を真剣に考え、目標実現に向けた学習計画を立てる
- ③ ライフプラン(産社・産理の総括)を書く前の段階として「科目選択理由書」を作成する

1. あなたの選択した系列とモデル

生活・人間科学 系列 フードデザイン モデル

2. 系列・モデルの選択理由

\*書いてほしい項目(箇条書きではなく、文章にして具体的に書くこと。全て書く必要はない。)  
①なぜこの系列・モデルを選択したか(理由・きっかけ)  
②高校卒業後の進路は、大学・短大・専門学校・就職・その他のどれを考えているか  
③どのような学問分野または業種・職種への進路を考えているか  
④目標とする仕事、あこがれる人物はあるか。  
⑤あなたが生きがいを感じるときは、どんなときか。(どんな分野にやりがいを感じるか)  
⑥(選択を迷っている場合は)何について迷っているのか  
⑦(6月の予備調査から変更があった場合は)どのような気持ちの変化があったのか  
⑧系列授業見学、家族や先生や先輩などに質問・相談したこと  
⑨「産業社会と人間・産業理解」の授業を受けて考えたこと  
⑩科目選択をするうえで特に注意したこと、疑問に感じていること(知りたいこと)

- ①料理に興味があり、将来独立して独立してみたい。  
履修して損のないカリキュラムだと思ったから。  
②美容系の専門学校に進学したい。  
③美容業界、具体的にはビューティーアドバイザーになりたい。  
④目標とする仕事は上記の通り。憧れる人物は佐伯子さん。  
⑤化粧品を選べば時々お買いものしている時。  
⑥迷ってません。  
⑦気持ちの変化も特にないです。  
⑧何が大変かを先輩に質問したり、やはりレポートまでめぐらしくて大変らしいです。  
⑨私は割と中学生の頃から進路を考えていたのですが、この  
授業を通してより現実的に考え事ができました。  
⑩本当に「これがやりたい!」と思えるまでつまづきを深く乗り越えてきました。

3. 進路実現のための学習計画と目標

実現目標 単位を落とさず卒業する。

\*書いてほしい学習計画(できるだけ具体的に文章にして書くこと)

- ①在学中、学習面で特に力を入れたいこと(教科の学習目標、資格検定など)
- ②これだけは最低限クリアしたいこと(評定平均など)
- ③ふだんの生活で心がけたいこと

- ①単位を1つも落とさない。レポートはちゃんとまとめる。  
なげやりにならないで何事も意欲的に取り組む。  
②評定平均3.0以上はクリアしたい。  
③遅刻しない。提出物の期限は守る。あいまりをしない  
言葉は使わないようにする。

4. わたしの履修計画表

単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	時間割外科目
1年次	数学Ⅰ	化学	英語Ⅰ	情報	国語	地理	体育	社会	産業基礎	産業理解	総合												
2年次	世界史A	現代社会	生物学	体育	国語Ⅱ	起業基礎	フードデザインⅠ	発達心理学	現代文化Ⅰ	日本史B	総合												
3年次	体育	国語	卒業論文	現代文化Ⅱ	人間科学	社会福祉	フードデザインⅡ	クッキング	技術文化	簿記入門	販売実践	総合											

\*記入上の注意

- ガイダンスブックの「教育課程表」を参考に、必履修科目と選択科目の間に太線を引くこと。
- 「総合的な学習の時間」や「LHR」はいちばん右側に書くこと。

5. 履修計画をたてるにあたって(総合学科のルールを再度確認しよう)

○生徒手帳 p.30 の「学習規定」を参考に、以下のキーワードの意味を書き出そう。

キーワード	キーワードの意味(本校のルール)
履修と修得	欠課が1単位につき9授業時間以内で「履修の認定」。 履修が認定され、且つ満足できる成果を認められれば修得。
単位	合わせて83単位以上で「卒業の認定」。(2以上で「単位認定」)
欠課	授業開始後5分以上過ぎて入室した場合及び授業終了以前に退室した場合。
評価と評定	定期考査で主な資料でし、各種の評定から段階で評価。 ただし、2単位につき3授業時間以上欠課した者、定期考査や 全て欠席した者は対象外。

【資料編】(3)「産社・産理」ノートの記録

③学習レポート

学習レポート	
テーマ「社会人講話をふりかえって」	
昨日は職場体験先「エーケータイカスト(株)」に勤めていた郡司さんから様々な説明・お話を聞いた。どんな仕事内容なのか、どうして自分はこの職についたのか、高校時代のこと、これまでの生い立ち。思つたよりも陽気な方で安心した。お話をによれば、仕事内容は主に機械の設計・製造。亜鉛やマグネシウムなどの金属を溶かし型に流して製品をつくろ、といふもつた。工場での作業なのでおよそ40℃にもなる場所で働くこともあると聞いて驚いた。私の想像ではもと細かな作業をくりかえしてワーカーのががた部屋で働くものだったが、実際はそこ以上に暑い中で働くものだと知った。携帯電話やデジカメ、その他生活に触れる金属製品はタイカストによって造られるものだといふ。部品のサンプルも見せてもらひ、普段何気なく使っている機器も、たくさんの人々の手を渡して造られてゐるだと改めて気がついた。ちなみに郡司さんがこの職についたきっかけは、高校時代の先輩の紹介だったそうだ。なして、社長が部活のOBの方なのだといふ。この職に求められるものは何ですか、と聞かれたところ、「たまによりもますやる気かな。資格	7月11日(火) 1年 番 氏名

(P. )

は特に必要ないよと話してくれた。でもやはり「社会のため」に働くこと考える人が一番とも言っていた。大人って大変なんだなと痛感する一言だった気がする。また、どの仕事でもそうだけれど、「お客様から信頼されることはとても大事で、一つの小さなミスも、それがつづくともう注文が来なくなってしまい、業績が上がらなくなる」ともあるそうだ。そして何よりも述べた利益の話だけでなく、自分の生きかたとしているものが「信用されない」というのはとても悲しいことだから、何事にも手は抜かないようにしていろよ」と教えてくれた。何だからその時、郡司さんがとてもカッコ良く私は思った。私もそんな风に堂々と言えるよう、自分の仕事に誇りもできるような人間になりたかったと思った。まずは今回の職場体験を通して、様々なことに触れて学びたい。7月26日なのでそろそろに日も近いので、心の準備をしておこうと思う。退刻や忘れものはもちろんのこと、体験先の人に迷わくをかけないよう気をつけたい。	検印 
班長の指示をよく聞き、10人の仲間と一緒に充実した1日をすごせたために頑張ったつもりだ。	(P. ) 気合いの入ったレポートですね。 good!